第三四号
博文館記念書翰集
其一
18
71
1

博文館記念書翰集　其一

葵三四号

特 13
71
1

大橋圖書之印

大橋新太郎君

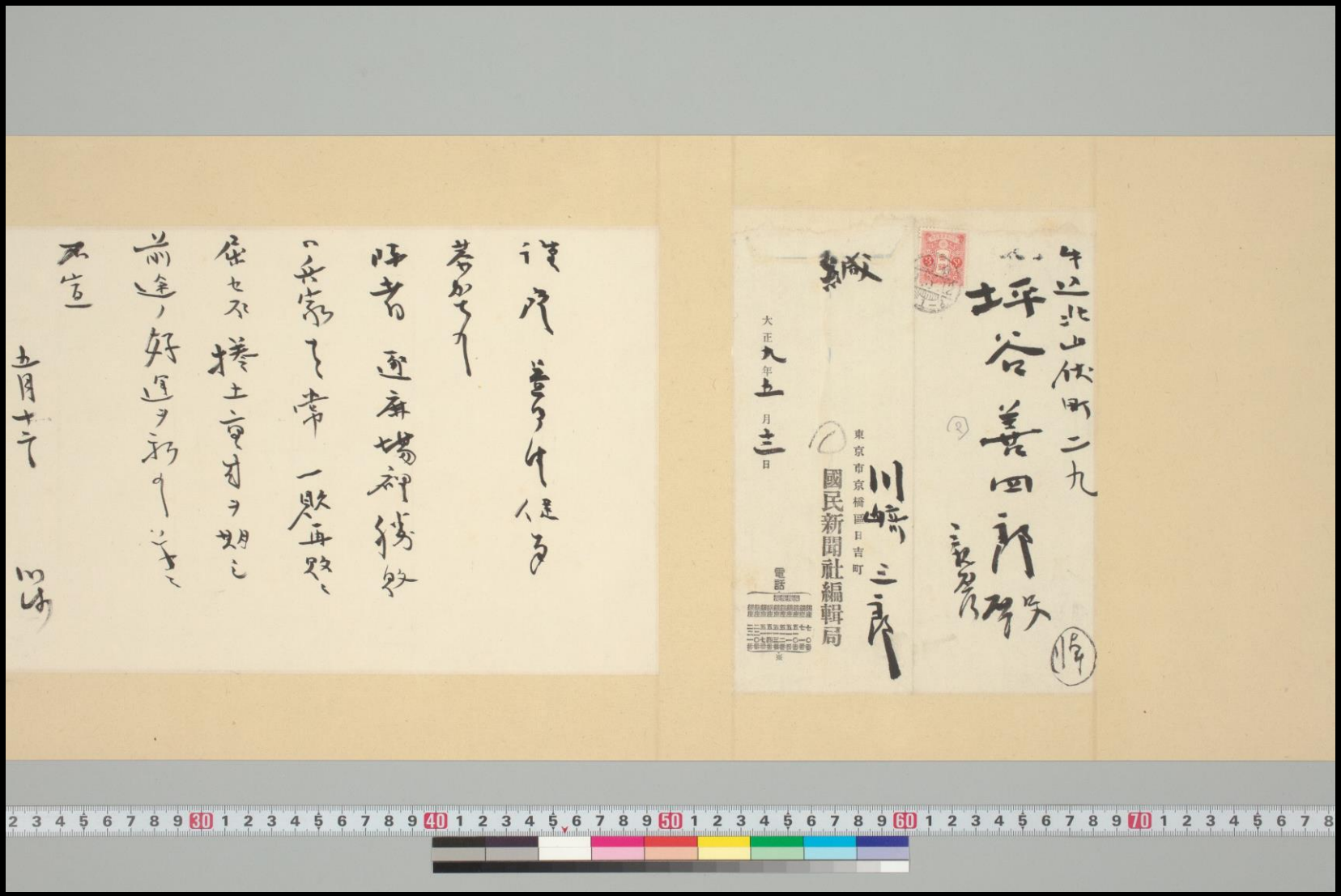
卷中目次

明治三十四年
一月一日

大橋清朝文庫

卷中目次

大橋新太郎君　明治三十四年一月一日
川崎三郎氏　大正九年五月十二日
松井廣吉氏　十五年十月十日
内山正如氏　大正十年月十七日
巖谷小波氏　大正六年六月廿一日
大町桂月氏　三月廿日
江見水蔭氏　明治三十[illegible]年[illegible]月十七日
玉虫種德氏　明治三十[illegible]年十月十五日
浮田和民氏　明治四十二年一月二十五日
本多精一氏　十二月十六日
淺田彦一氏　明治四十五年五月十一日
以上



牛込北山伏町二九
坪谷善四郎殿

親展

東京市京橋區日吉町
國民新聞社編輯局
川崎三郎

大正九年五月三日

電話
銀座
二三五五 二五五五 二七七
一〇七四 一二一〇 一〇〇
新橋 芝 麻布 赤坂 番

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

坪谷善四郎様

③ 法華

桜井義雄

謹啓

友人草堂磐石（白井

遠年代之点）ニ対シ

市撰井市作氏ヲ仲介

[illegible]

頼リ以テ御願ヒ致シ

[illegible]

[illegible]

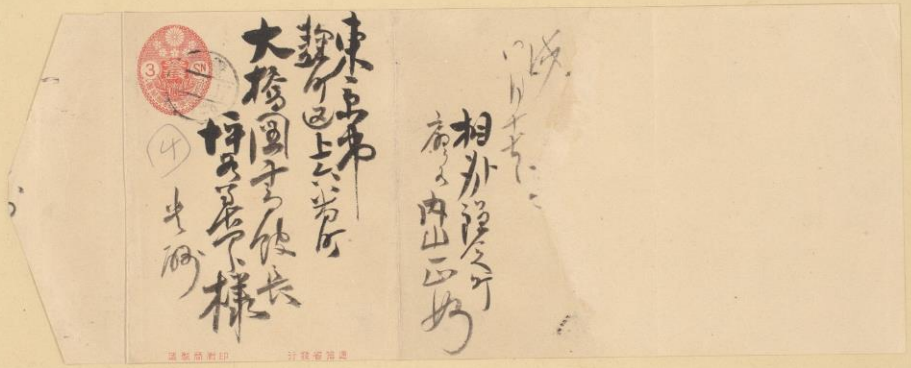
[illegible]

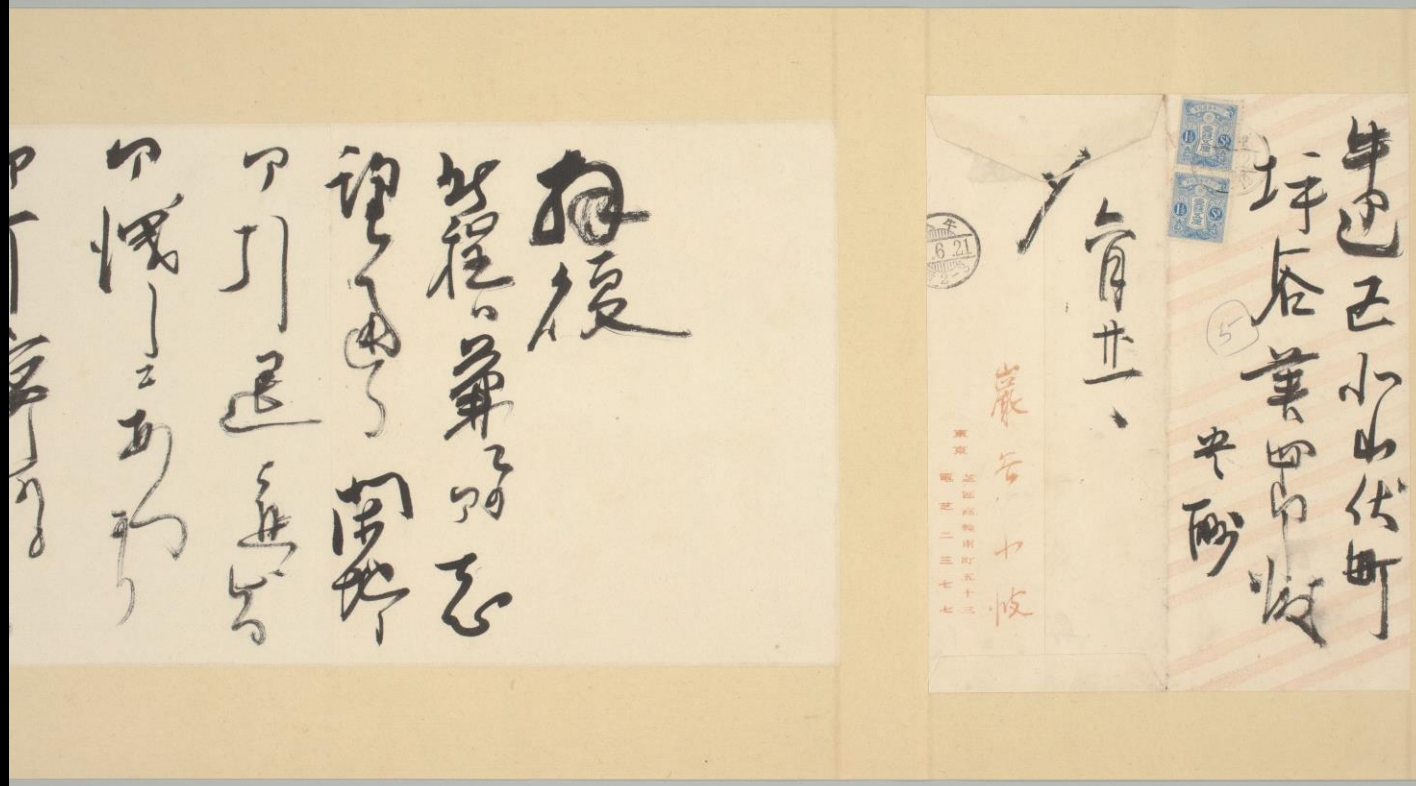
謹啓

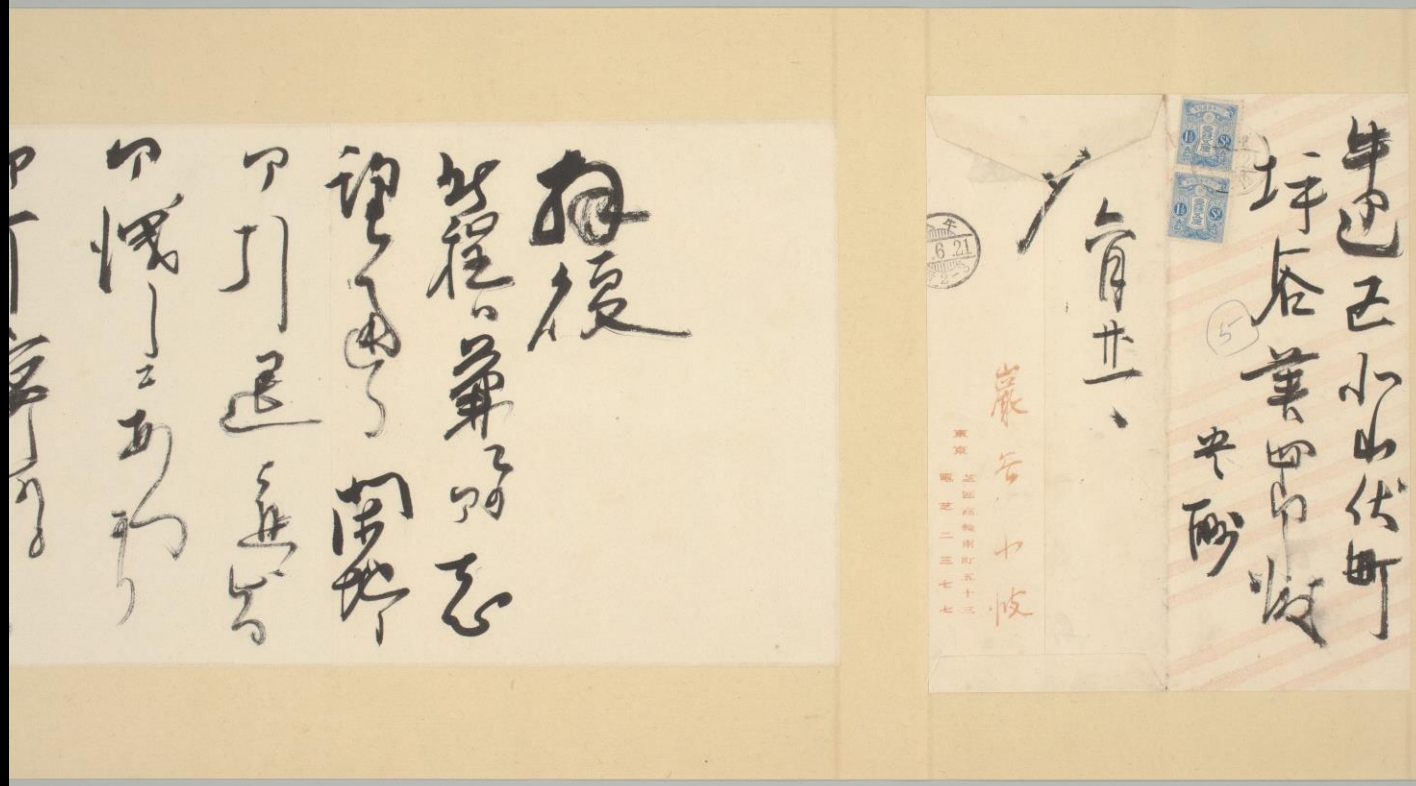
友人草生磯吉（白井
遠平氏之弟）ニ対シ新潟
市機井市作氏ヲ仲介
依頼致シ候ニ付テハ
頼リ以テ御ヤリ被下
度御用中ニ出張ナク
而時々ニ御来訪
十二月十日　敬白

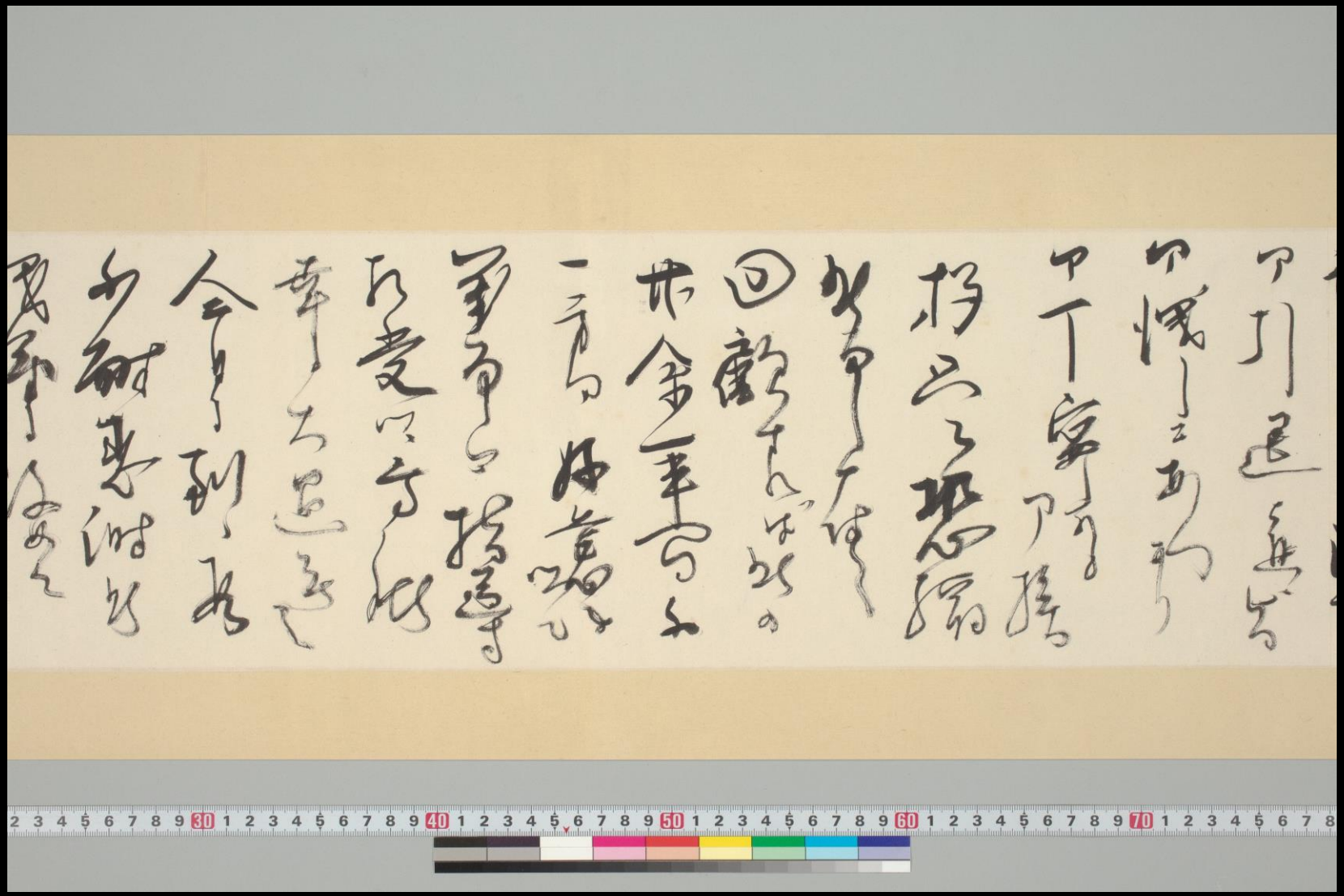
松生

[illegible]

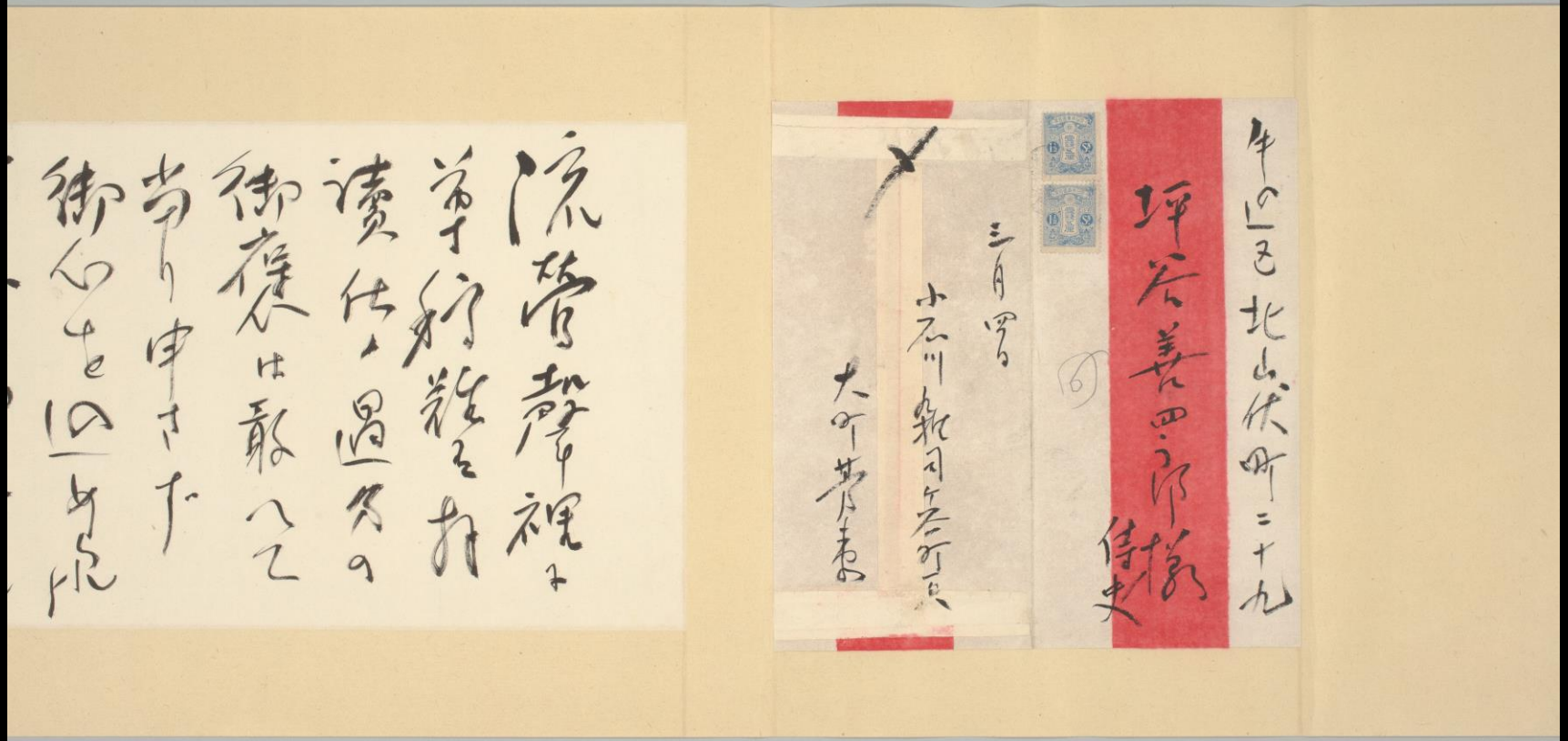



6 21
巖谷小波


6 21
巖谷小波



今年秋
如何無恙御
[illegible]
[illegible]
仰申
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
職の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



年の巳 北山伏所二十九

坪谷善四郎様 侍史

三月四日

小石川新日本町五

大町芳衛

(10)

陳者聲祝之
第新春之
候仕過久の
御疎は敢へて
申さず
御心を以て

[illegible]申さず
御心ざしは
金玉の御文章も
頂戴して拙者
[illegible]光彩を
放ち申し候
御礼申上
[illegible]
御月玉事一ヶ
[illegible]

三月晦　[illegible]

坪尾[illegible]侍史

東京市日本橋區
本町 博文館
坪谷水哉 様

十七

庵の道
江見水蔭

此書翰ハ明治二十五年六月太陽臨時增刊「海の日本」發行の記事を得る為江見氏を肝煎海軍艦隊(兼行)遊行とゝん九州へ派遣ゝゝ途中の發信なり 坪谷水哉附記

昨夕岩尾可仕の迎 橋本貴族院議員 杉山尾道市長 博士の一行を招待致し 陸奥小生も醉尾も附き とゝふ譯で 天書撮影所へ小生を聞き 結局 三名立現はれて 水色絽紬の腰巻を見せるとゝふ 艶冶なる 今日は止さうと相談り 満別々を風流流星の如く脱んで無 大いに加はり 夕風を辭して 一庵は 畫舫を席を移し申しん 江は似る 海上より市街の燈火を眺めあぐ 美人の酌は 北入のビール『あんれ飲み ふはれえふ』と 来ては 武人も文士も 留るものあるべし 小生得意の 詩吟『海上寒析』をぐゝいし『えゝ声 がッふ』の賞替を博もしん 然るに夕立のバラ〳〵と来りしより 船を新地の河岸へつき出でたる 調鶴楼の新館敷に移りしが大酔

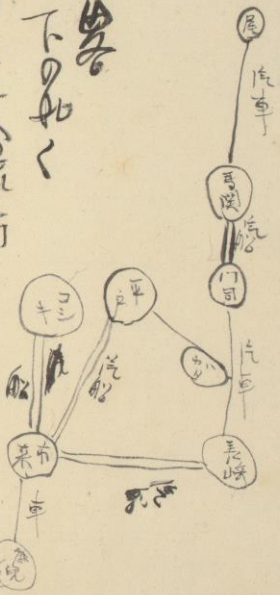
船を新地の河岸へつなぎ海へつき出でたる
調鶴楼の新造数名を呼び寄せ大酔
せる栄少佐は思うて海中へ陥り
アハヤ多忠言の軍配を家[げもどせ]と
申すもそれ杉山和長なるぞ引上げ

(二)
申しんぬ少佐は平素で陽れたる、
調鶴楼の踊り入り又々椽側より
転げ落ちて ソレでも驚かず
カッポレを踊りまくり又々洋燈
を倒し申しん
絃歌加はりて八名いづれも無芸
無能はあれど美は美少なりの芸の
技料を口実に男員数奉
公捕申しん
悔軍 尾道竹枝の(自作)唄
を唄うて曰く
船は津でもつ津は船でもつ
備後の尾道
瀬戸でもつ

少佐は橋本氏と
山田は杉山氏と 壮んに酒戦し
大愉快を極めん

(三)
つくづくみるにつけ之で懐中が
少しも痛まぬは何んぞ
果報で 明川、流山、序州
一台歌は出る 内船人が
揚げるとなれば大いに 内船人が
面倒でもあり 一生一代
新方法発ぶん

一寸前途を申上ん



七日
下の如く
中々大旅行？
帰途博多
博多
帰途

②

世話は何分よろ
敷上
先は近況も
有りのまゝ
申すまでもなく
禁掲の数より博多の

能をけづり
諸君もよろ
十七日
水哉

日本橋本町廿丁目
坪谷善四郎様
急ぎ

(8)

十月十六

國府種徳

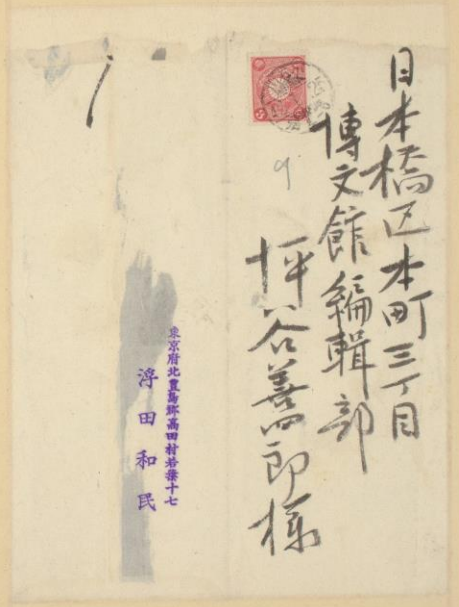
小我老台侍史　種徳

拝復

岩田氏那病ノ由太平洋
ノ岸ヨリ愛ル仙ヶ崎ヘ
ヒキヤ貴上退飯原病美り
方ニ問度ヒトリシ由意外ニ
ハシ夏ノ暑入ニ天昨朝起床
四ヨリ出血アリ寒冷ニ急ニ
医ヲ呼ビ診断ヲ乞フ天慶
系管ニ熱ヲ生ジ居ル由ニ

[illegible]
ニキヤ貫上是版原稿送り
方ニ間違ヒヲリシ由意外ニ
ノシ夏ノ驚入ニ天昨朝起床
咽ヨリ出血ヲリ寒気ニテ急ニ
医ヲ呼ビ診断ヲ受ケ天麻
煎薬ニ熱ヲ生ジ居ル由ニテ
敢ヘシ飲ミ難ク肝ニ痛ミヲ
覚エ天医ハ外出ヲ禁ズル天
ハ田山氏ノ不在ニテ有リ明後
日嵯ニハ登飯而致居天床
床ハ敷シ居ラズ床ニ入リ又床ヲ
出デ戸ヲ閉ケテ外ニ腰ヲ掛ケヤウ
歩ミ居ルシ而坐天況キニ此
ノ二面人物松原社ノ藤田家
氏ノ由ニテ如何ニ来リ調査セガリシヲ
田山氏早ク定メテ紙行ニ赴キシコトナ
シ公ニ帰ニテ得ズ生憎人名詳
書ニハ松原ノ方家閥ノ者有之天
ハ藤田氏ノ名ノ無之不完全ニ
聚ヲキ入天此大体ニテ出シ天ハ
ドナタヲ見出ス人氏カ訳シカ
所ヲカ心ハ如ナ人ニハ大抵ハ分ルカ
度嘗ノ論又孔知敬天今三四日ノ
保養ニテ大抵平復ス論ナキニテ
ハ[illegible]ト

不宣



日本橋区本町三丁目
博文館編輯部
坪谷善四郎様

東京府北豊島郡高田村字雑司ヶ谷十七
浮田和民

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仕為尽力候ハ、何と哉国い
加様い奉願候ハ、仕協議
可申候也

[illegible]而相頼候ハ、[illegible]山路
[illegible]い三月より毎月人物
評論を出候ハ、又ハ候議
文藝相[illegible]も助力ハ[illegible]
[illegible]い山僧仕候ハ、毎月[illegible]
の謝儀も以し熟年[illegible]
[illegible]

一月廿五日　[illegible]氏

坪谷善四郎様

哲文館
坪谷善四郎様

(10)

林 英吉君紹介

本多精一

[illegible]先頃[illegible]類[illegible]
[illegible]
[illegible]先日紹介[illegible]川
[illegible]二[illegible]林英吉
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]貴館[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

東京日本橋区
偉文館
堀谷宗四郎
様

(11)

[illegible]

東子ハ亂軍ハ拾郎ハ
想像ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]